



大平台

昨日、卒業証書授与式を感動的に終えることができました。6名の卒業生は、返事、歌、お別れの言葉と、どれをとっても素晴らしいものでした。卒業生の神崎中学校での活躍を心からお祈ります。卒業おめでとうございます。

米沢小学校だより
平成26年度第31号
3月20日(金)発行



(編集後記) 卒業式での在校生の態度も大変立派でした。涙を堪えながら頑張ったお別れの言葉の呼びかけは、参列していた大人たちを感動させました。今学期もあとわずか。修了式までしっかり頑張りましょう。

(H27.3.19 卒業式での校長式辞)

今朝、いつものように登校指導をしていると、集団登校してきた子どもたちの中に六年生はもういません。当たり前なのですが、今までと違う中に、卒業を実感しました。巣立ちの日を迎えた六年生の皆さん、卒業おめでとうございます。ただいま卒業生六名に卒業証書を手渡しました。受け取る皆さんの表情には、緊張感の中にも、この米沢小学校で充実した日々を過ごせたという満足感とともに、六年間学んだ校舎、かわいい後輩たち、お世話になった先生方と別れなければならぬという寂しさが伝わってきました。「卒業おめでとう」と声をかけると「ありがとうございます。」と全員から返事がかえってきました。握手した手は、感謝に満ちあふれているようでした。

今、皆さんが手にしている卒業証書は、小学校六年間の学びがすべて終了したという、証です。卒業証書を開いてみてください。たくさんの証が書かれているあなたの証書には、同級生と違う所が三カ所あります。一つ目は、もちろんあなたの名前です。その名前は誰が付けたのですか。名前にはどんな意味があるのですか。お父さんやお母さんに聞いたことはありますか。きっと、あなたへの限らない愛情と成長していくあなたへの思いを込めた名前だと思います。自分の名前を、誇りに思ってください。二つ目は、あなたが生まれた日です。あなたは覚えてはいないと思いますが、お父さんお母さんは生まれた日のことをしっかり覚えています。あなたが生まれたことを、家族のみんなはどれほど喜んだことか。あなたを心から愛し、大切に思いながら、今日まで育ててきたのです。あなたは、家族の宝物なのです。三つ目は、最後にしるされている四桁の番号です。その番号はいつから続いているのでしょうか。それは、明治、大正、昭和、平成と百三十年以上続いている番号で卒業生の人数を表しています。その番号こそが、米沢小学校の歴史ともいえます。皆さんは、その歴史の一ページに名を刻むことができたのです。その卒業証書は米沢小学校と皆さん、そして私たちをつなぐ大切なものですから、生涯大事にしてください。証書を閉じてください。



皆さんは、六年前に大きなランドセルを背負って入学してきました。一人の男の子と七人の女の子の八名でした。やんちゃで個性が強く、とてもかわいかったと担任の先生から聞いています。その子どもたちは家族の愛情に見守られ、先生がたの熱心な指導のもと、様々なことを学び、体験しながら、こんなに体も心も大きく成長し、今日を迎えたわけです。

わずか六人なのに、たくさんの試練をよく乗り越えてきましたね。実は、卒業生が六人というのは、百三十年以上の歴史の中で最も少ない人数です。少ないからこそ、仲間と過ごした時間は長く、互いが強い絆で結ばれ、きっと全員が生涯の友になれると思います。しかし、学校のリーダーとなって活動した六年生の一年間は、「自分たちだけで何ができるんだ」と悩み、苦しんだのではありませんか。時には、投げ出してしまいたと思ったことはありませんか。そんな時、担任の先生や他の先生方、もちろん保護者の励ましはあったでしょうが、全員で協力し助け合いながら、プレッシャーに打ち勝ち、最上級生としての役割を立派にやり遂げました。皆さんはいつも、自分たちのことより、学校のため、全校児童のためと全力疾走してきました。その結果、教育目標の「心身ともに健康で、自分で考え、正しく判断できる、実践力のある子どもに育ちました」。自分に、自信が持てるようになったのではありませんか。これこそが今まで受け継がれてきた伝統であり、米沢小学校の宝なのです。



ここにランドセルが一つあります。誰のランドセルかわかりますか。これは、卒業する〇〇さんのものです。ランドセル、イコール小学生と言えますね。卒業生のランドセルたちは、今日を最後に役目を終わろうとしています。雨の日も風の日も、時には乱暴に扱われても文句も言わず、六年間皆さんと一緒にいました。毎日、教科書や学習道具を運んでくれました。また、皆さんを危険から守ってくれていたのを知っていますか。後ろへ倒れても頭を守るクッションになったり、もし、川へ落ちて浮き輪の役割をすることもあったのです。皆さんは、お父さんお母さんや今までお世話になった人々への感謝を忘れてはいけません、自分が使った物たちにも「今まで本当にありがとう」と声をかけてやってください。

みなさんは四月からいよいよ中学生です。今より少し広い世界へ飛び立ちます。皆さんをさらに高めてくれるステージが神崎中学校にはあります。中学校生活に不安もあるでしょうが、小学生は誰もが通る道です。小学校より短い、三年間です。自転車での通学や教科ごとに先生が代わる授業、さらに専門的な部活動、スケールの大きくなる行事など、最初は戸惑うかもしれませんが、すぐ慣れます。また、六人だった教室が、三十名近くになり、人数の多さに驚くかもしれませんが、すぐに新しい友達がたくさんできます。皆さんなら大丈夫です。心配ありません。

皆さんに、テレビドラマにもなっている、吉田松陰の言葉を贈ります。それは「志を立てて もって万事の源とする」という言葉です。意味は「すべての実践は、目標を決めることから始まる。」ということです。勉強でも、運動でも、常に目標を決め、親や先生から言われるからやるのではなく、自分の意志で努力することです。中学校でも失敗を恐れず、何事にもチャレンジしてください。それが笑顔の絶えない楽しい中学校生活につながります。でも、もし我慢できないほど辛いことや苦しいことがあった時は、この米沢小学校を思い出し、私たちを頼って、必ず会いに来てください。私たちは強い絆で結ばれた仲間ではありませんか。どんなときもあなたは一人ではありません。ここにいる全員が、皆さんを温かく見守っていることを忘れないでください。

卒業生の皆さんとは、今日でお別れです。この校舎とも、使い慣れた椅子や机とも、この小さくなったランドセルとも、今日でお別れです。それは私たちにとっても、泣きたくなるほど悲しいことですが、笑顔で皆さんを送り出したいと思います。皆さんの人生はまだ始まったばかりです。これから、たくさんのことを学ばなければなりません。たくさんの経験をしなければなりません。楽しいことばかりではないでしょう。どんなときも、「ほんき、やるき、げんき」の精神で、たくさんの人たちに勇気や希望を与えられるような、ステキな大人になってください。(後略)

